

研究授業「教育相談」についての考察

織田 幸美*

Reflections on an Open Class “Educational Counselling”

Yukimi Oda

要約

本稿は、2022年度前期の発達科学部研究授業「教育相談」についての報告であり、授業の概要及び課題について言及している。研究授業時のテーマは「学級経営による子どもの援助」である。授業後討議では幼児教育コースと児童教育コースのいずれの校舎種の現場においてもそれぞれの学生が実習で経験したことをイメージしながら、具体的な学級経営の形を考えられることができたという意見が出た。また、グーグル・ジャムボードを活用し、グループでの意見交流の活性化を試みたことは今後のBYOD(Bring Your Own Device)の授業形態に対する一提案となり、授業を参観した教員から活用していきたいという声が上がった一方、IT機器の活用については研鑽の余地があるという意見があった。

キーワード：学級経営 子ども支援 グーグル・ジャムボード

Abstract

This paper is a report on the research class "Educational Consultation" in the Faculty of Human Development of Takamatsu University in the first semester of 2022, and mentions the outline and issues of the class. The theme of the research class was "Supporting Children through Class Management." In the post-class discussion, there was an opinion that it was possible to consider specific forms of class management while imagining the experiences of each of the school types of the early childhood education course and children's education course. In addition, the attempt to stimulate the exchange of opinions in the group by using Google Jam Board was a proposal for the future BYOD(Bring Your Own Device) class format, and the teachers who observed the class said that they would like to use it, there was an opinion that there was room for study in the use of IT equipment.

Keywords： Classroom Management, Child support, Google Jam Board

1. 研究授業の実施

研究授業及び検討会は以下の日程で実施された。

1.1 研究授業等の日程

(1) 研究授業

日時：2022年7月13日(水)4校時

場所：本館2階202講義室

科目名：教育相談（講義，2単位）

対象学年：発達科学部4年生

当日の受講生は受講登録者69名に対し，60名の出席であった。

(2) 受講生の状況

① 受講態度

大講義室での授業であるため，すべての学生の受講態度を把握することは困難であるが，本科目は幼稚園教諭・小学校教諭免許取得のための必修科目であり，私語や居眠りはごく少なく，概ね真面目な受講態度である。小学校教員採用試験や幼稚園や保育所等の就職を控え，授業内容を自分事として捉え，考えようとしている学生が多いと感じている。

② 座席

コロナ対応の一つおきの座席を遵守し，また教室後方の座席は使用しないというルールの下で自由席としている。修学に支援が必要な学生や過年度生が複数名受講していたため座席への配慮が自然にできると，気心の知れた学生同士の方が交流が活発になり，話し合いに対する抵抗が少ないと考えたからである。コロナ対策として毎回，Google Formsによる出席確認の際に座席番号を入力させて出席と座席の把握ができるようにしている。

(3) 授業検討会

日時：2022年7月13日(水)5校時

場所：2号館3階2313演習室

参加者：5名(発表者含む)

2. 「教育相談」の授業計画

授業計画については本学シラバスに掲載しており，内容は以下の通りである。

【授業の紹介】

この授業は，実務経験のある教員による授業科目である。小・中学校の現場での教育相談担当教員やスクールカウンセラーの経験を活かし，具体的な事例を示しながら授業を行う。教育相談は，幼児・児童の心理的発達を支援するための日常的な教育活動であ

り、教育の専門家としての教師にとって、教育相談に関する基礎の習得は不可欠である。子どもの発達上直面する問題について柔軟に対応し、援助するためのスキルについて、体験的な活動も取り入れ、子どもの心理的成長を支える予防的援助について学習する。

なお、この授業科目は卒業認定・学位授与の方針の「2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。」に関する知識、技法の習得を目指す。また、学修成果『③多様な価値観を受け止め、他者を受容しつつ他者との十分なコミュニケーション能力を有している。④教育・保育に関わる問題について情報収集し、自らの思考力・判断力を用いて分析し、解決方法を表現して公表する力を有している。』に関連している。

【到達目標】

到達目標は以下の4点である。

- 1.学校における教育相談の意義と理論を理解することができる。
- 2.教育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解することができる。
- 3.教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解することができる。
- 4.学校での子どもに対する予防的心理教育の方法について理解し、実践力を高めることができる。

【授業計画】

- 第1回 教育相談とは
- 第2回 児童生徒理解のための心理学
- 第3回 アセスメント
- 第4回 カウンセリング
- 第5回 コンサルテーション
- 第6回 ソーシャルスキル教育
- 第7回 ストレスマネジメント教育
- 第8回 キャリア教育
- 第9回 不登校
- 第10回 いじめ
- 第11回 発達障害
- 第12回 学校の危機管理
- 第13回 学級経営によるこどもの援助
- 第14回 Q-U と構成的グループエンカウンター
- 第15回 学校教育と教育相談

定期試験

【授業時間外の学習】

・指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと。
(毎回2時間)

・内容についての小レポートを毎回課すので、まとめて提出すること。(毎回2時間)

【成績の評価】

・学期末試験(60%)と小レポート(40%)

小レポートについては、その都度、授業時に講評する。定期試験については教務課窓口及び教員研究室において模範解答を閲覧できるようにする。

【使用テキスト】

・テキストは使用しない。授業時間中に資料を配布する。

【参考文献】

・絶対役立つ教育相談(2017年10月 藤田哲也監修 ミネルヴァ書房)

・生徒指導提要(平成22年3月 文部科学省 教育図書)

・初めて学ぶ教職 教育相談(2019年3月 吉田武男監修 ミネルヴァ書房)

・新訂版 学校教育相談入門(2014年5月 有村久春 金子書房)

3. 本時の授業について

3.1 授業計画

(1) 講義テーマ：学級経営による子どもの援助

(2) 授業の目標

- ・学級経営の意味について知り、集団の重要性について理解する。
- ・困難を抱える子どもを含む学級の事例について個と集団のバランスを考えながら対応を考える。

(3) 指導案(指導内容)

時間	講義・学習内容	準備物など
14:40	○出席確認、健康観察 ・座席、マスク着用確認	PC (Google Forms) プロジェクター
14:43	○前回の振り返り ・愛着形成の不全による症状について	OHC
14:50	○学級経営とは ・学級経営の定義について知る。 ○教育力のある学級づくり ・学習指導要領や生徒指導提要の内容 ・学級担任に求められる力 ・教師の指導行動、リーダーシップスタイル	PC (Word 資料投影) 資料配布

15: : 20	<ul style="list-style-type: none"> ・教育力のある学級とは ・望ましい学級集団の要素 	
15 : 20 15 : 25 15 : 45	<ul style="list-style-type: none"> ○事例から学級経営を考える ・グループ分け ・グループごとのジャムボードに個々の意見を貼り付け、意見をまとめる。 ・発表する ・学級経営の在り方についての確認をする 	PC (Google ジャムボード) 机間巡視 発表用マイク
15 : 55 16 : 10	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをまとめる ・投稿の中に必ず自分の氏名・学籍番号を記入することを確認する ・時間内に終わらない者は課題とする。 ○連絡事項・消毒作業 	PC(Google Classroom)

(4) 配布資料

- ① (紙媒体)本講義のスライド資料 A4用紙 3枚分
- ② (GoogleClassroom ストリーム画面にて) ジャムボードによるワークシート

(5) 使用機器

- (教員)ノート PC, OHC, タブレット
 (学生)手持ちの PC, タブレット, スマートフォン

4. 検討会並びに参加者からの意見

4.1 授業を積極的に評価できる点

(1) 教育内容

・保育・教育者として、子どもと向き合うにあたって、所謂「個人レッスン」のように当該の子どものみと関わるわけではなく、そこには「友人関係」、ひいては「学級」という社会が常にセットでついて回るという事実関係について、ひしひしと考えさせられました。

・「集団として育つ」という意識をもつこともこれまでなかったように思います。社会に属する責任を自覚して、遅ればせながら、教育において多少なりとも次世代に還元できるように精進せねばと感じております。

・先生がいわゆる学級集団という定義を含めて丁寧に押さえて網羅されていて、これは基本的なもののなので現場にでるにあたってすごく大切だしいいと思った。

・ポイントをしっかりと押さえられていた。「学級経営とは何か」というのは1年生でやるべきものかなとも考えられるが、4年生でやるということでより実践的に丁寧に授業を

進められていた。内容的には小学校教育の内容が中心になっていたが、幼児教育コースの学生にも考えられるようになっていた。

(2) 授業方法

- ・ 幼保，小学校の校種にとらわれないように，あえて学年ではなく年齢を出して事例を考えさせたことで学生から多様な意見を出すことができていた。
- ・ 学生がジャムボードで打ち込んでいく作業は面白かった。
- ・ 基礎理論の学びは大切だが，具体的に6歳児ならどうするか，というイメージに落とし込んで，実際に現場でどのようにいかされていくか，そういうところが現場で生じるいろいろな問題に対応できることにつながるヒントを得られたのかなと思う。
- ・ 10のグループの結果というのはジャムボードによって学生が後で振り返ることができるが，意見の違いを知り，共有化することに役立っていた。
- ・ 幼児教育コースと児童教育コースの学生の考え方がそれぞれ大学の中で履修によって多少変わってくる。その中でどう考えるか，考え方の違いが具体的に理解することにおいてまずは意見の共有化ができ，そこから自分の問題を考えていくうえで違う見方に気づくことができた。
- ・ ジャムボード内のグループ作業はリアルタイムで教員も他グループの学生も確認でき，お互いの考えを知るうえで有効であった。
- ・ 教員が各グループを机間巡視し，タブレットで確認して内容についてのコメントができていた。ジャムボードの有用性を感じた。
- ・ ジャムボードの存在は知っていたが，使い方ははっきりと知らなかったので今回実際に授業で見ることができてよかった。付箋を使ってKJ法がデジタルでできるということでこれから活用されていくものだと思う。リモート授業にも対応できる。
- ・ コロナ禍でもあり，話し合いというより，それぞれがその場で意見を書いてそれを交流するというのは今ならではのやり方であり，参考になった。
- ・ ジャムボードの使い方はとても参考になって活用してみたいと思った。
- ・ 個人や意見のグループをまとめるのにキーワードがあらかじめ示されていたのがよかった。
- ・ PDFの拡大資料に文字を書きこみながら進めていたので，ややスクリーンが見にくい部分もあったが，それなりに学生には伝わっていたのではないかなと思う。

(3) その他

- ・ 先生の授業を拝聴すると，15回授業の大きなストーリー，1回の授業内のストーリーが明確で，いかに自分の授業が，ほとんど15回分の「とりあえず一発芸」の羅列であるかを痛感させられました。（1回90分の授業の中でもつぎはぎが生じていることすらあります。）教育に関する知識については，学生を含め，会場内で最も素人のわたしで

も十分ついていけるようなリラックスしたテンポ感で、しかも弛まず淀みのない進行は、経験のなせる業なのでしょうか。講義とはいえ、双方向のベクトルというよりはむしろ、あうんの呼吸で響き合う合唱を聴くようでした。

4.2 授業の改善に関わる点

(1) 教育内容

- ・「教育相談」という授業で実際に相談のロールプレイングなどが中心になっていると考えていたが、網羅的であった。シラバスの中でもっと取り上げてよいのではないか。
- ・学級経営という考え方は必要だが、幼児教育コースの学生が自分のものとして考えられるか工夫の余地がある。

(2) 授業方法

- ・プロジェクターのスクリーンが見え辛いですが、全学全ての教室において同様だと思います。なんとか改善できないものなののでしょうか。話し手が暗闇の中にいるのが、着任当初は衝撃的でしたが、6年目にしてようやく慣れてきたところです。先生方のお話だけでなく、お人柄や表情が、たいへん魅力的なのでもったいないという気持ちは、いまだ拭えません。
- ・スライドが見づらかった。教室のスクリーンの問題なのかもしれないが、発表の時だけ大きく拡大するなどの工夫があればよい。
- ・ジャムボードを使った授業で学生が意見を出し、集約していくプロセスにおいてPCを打ち込んでいる学生はそれなりに見えやすかったが、スマホで作業している学生は、非常に見えづらかった。BYODが実施されるようになれば今日のようなやり方がもっと有効になるだろう。
- ・ノートパソコンが手元にあればもっとほかの授業でも使えるようになると思う。
- ・学生の手元の画面では他のグループのボードも自由に見ることができるので、全体交流の場面でこちらが示しているボードを見ていない学生もいた。集中管理ができ、画面を固定できる機能があればよい。

(3) その他

- ・コロナ対策で教室が変更になり、学生の座席配置が実践・体験的なものができにくくなっている。
- ・全体交流の場で他グループの発表を聞きそのあとまた討議が広げられればより良いと思うが実態は難しい。
- ・グループによって取り組みに差があり、グループメンバーへの配慮が必要なのではないかと感じた。

5. 今後の課題及び取り組み

今回の授業では、発達科学部の先生方から貴重なご意見やご指導をいただき、授業内容や授業方法についての改善点が明確になった。

一点目は授業内容について、取り扱うべき項目である。

「教育相談」はしばしば「カウンセリング」と同義的に用いられるが、カウンセリングは教育相談活動における〈主要な態度や方法及び技術〉(有村,2014)であり、そのために精神分析や自己理論、行動療法などの諸理論に裏付けられた考え方を学ぶことは重要である。しかし「生徒指導提要」(文部科学省, 2010)では「教育相談」は児童生徒それぞれそれぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格への成長の援助を図るものであり、相談室だけで行われるものではないとされ、すべての教員がその教育実践上身に付けるべき重要な科目である。

保育所や幼稚園においても同様である。保育所保育指針(2017)において「教育相談」の文言はないが、清水(2015)は「保育士は豊かな感性と愛情によるかかわりと暖かな受容により、子どもが安心感と信頼感をもって活動できるようにする。保育そのものが教育相談であり、保育士が教育相談の心や姿勢を大切に子どもに関わることが求められる」としている。また、幼稚園教育要領(2017)にも「教育相談」という文言は表現されていないが、幼稚園は幼児期の教育のセンターとしての役割を家庭や地域との関係において果たすことが期待されており、保護者との関係が重要視される。

「教育相談」は幼稚園教諭一種及び小学校教諭一種取得のための必修科目であり、本学では幼児教育コースと児童教育コースの学生が同時に受講している。本時で取り上げた「学級経営」については、幼児同士や学級全体で目的をもって幼稚園生活を展開し、深めていくとされ、居心地の良い学級での幼児同士のかかわりは幼児の発達に大きな影響を及ぼすと考えられる。「学級経営」の知見や実践力は小学校教員を目指す児童教育コースの学生のみならず幼児教育コースの学生にとっても教育実践の現場で有効なものである。しかし、小学校に比較して幼稚園・保育所の現場では「学級経営」という考え方は意識が薄い傾向にある。授業の始めに保育所保育指針や幼稚園教育要領に照らしてその重要性を確認し、学生に意識づけることで、幼児教育コースの学生も必要感をもって授業に取り組むことができると考える。

また、授業に当たっては対象が4年生であり、受講者全員が保育・教育実習を体験しており、実際の子どもの様子がイメージしやすいと考え、具体的な事例を多用して理論と実践の融合を図りつつ授業を進めたが、校種によって発達の違いからイメージする子ども像の違いが見られ、学生同士の話し合いがスムーズにいかない場面があったという指摘があった。本時では具体例に取り上げる子どもを「6歳」に設定し、小学生か幼稚園児かということを曖昧にしたうえで、両コースの学生が入り混じったメンバーでグループでの話し合いが進められたため、学生の中に混乱が生じた可能性があると考えられる。児童と幼児では必要とされる実践内容の違いをあることを踏まえつつ、より内容

を精査し、それぞれの学生に実感を伴うものにしなければいけないと考える。

二点目は授業方法の工夫である。学生個々の積極的な授業への関わりを促すためにジャムボードを活用したことは効果的であったが、一方、スマホで入力していた学生が大部分で個々の作業画面が見つらく、教員側からもグループでの画面はチェックできるが個々の活動が見えにくいという難点があった。また、全体交流の場においても他のグループが発表しているにもかかわらず、自分のグループの画面を作成しているグループがあり、作成した画面を教員側で固定するなど、ジャムボードの機能をより活用することが必要である。今後、BYOD(Bring Your Own Device)形態の授業が実施されることで教員・学生共にジャムボードを含めた IT 機器とその機能を活用し、学生の学習効果が高められるような、より良い授業の展開ができるように一層研鑽に努めていく。

謝辞

本研究授業に対する先生方のご指導と、意欲的に受講してくれた学生に心より感謝いたします。

引用文献

- ・有村久春(2014). 学校教育相談入門 金子書房
- ・厚生労働省(2017). 保育所保育指針
- ・清水勇(2015). 保育者が行う学校教育相談 日本学校教育相談学会 研修テキスト
- ・文部科学省(2010). 生徒指導提要
- ・文部科学省(2017). 幼稚園教育要領